

12月末の人口  
世帯数 556世帯  
男 690人  
女 690人  
計 1,380人  
(馬路 1,034人)  
魚梁瀬 346人)


**広報**  
**うまじ**

平成4年1月15日発行  
第一四二号  
編集 馬路村教育委員会  
発行 馬路村教育委員会  
印刷 安芸タイプ



前列右から  
 小松 靖香(旧姓 伊場)  
 伊吹 佳恵(伊吹 光雄)  
 伊藤 優香(伊藤美千子)  
 山中 都江(山中 忠廣)  
 中岡 千晶(中岡精一郎)  
 五百蔵志保(五百蔵賢孝)  
 小松ちがや(小松 忍)  
 清岡 まり(清岡 修雄)  
 田中佳代子(田中 敬久)  
 伊吹 真波(伊吹 公夫)  
 笹岡 愛(笹岡 和彦)  
 後列右から  
 小島 聖也(小島 忠義)  
 中河 廣吉(中河 武)  
 大野 一幸(大野 未廣)  
 馬路村長(西尾晃一郎)  
 丸山 貴匠(丸山 佳子)  
 木下 伸一(木下 泉)  
 清岡 智樹(清岡 寿明)  
 清岡 隆(清岡 伸光)  
 伊吹 哲(伊吹 衢章)  
 藤原 俊二(藤原 俊彦)  
 山崎 栄喜(山崎 秋江)

成人おめでとう

**可能性を信じ、信念をもって進もう**

「成人の日」を迎えられた皆さん、おめでとうございます。夢や希望に胸が膨らんでいることでしょう。

しかし、これからは、あなたがた一人一人の行動や責任が問われます。社会に対し、自分に何が出来るか、また、何をしなければいけないか——こういったピジョンをもつことが大切になってきます。

# 今月のスポット

## 《10 月》

- 15日 魚梁瀬地区神祭
- 20日 魚梁瀬・馬路村民運動会
- 24日 小学校陸上交歓会
- 27日 安芸郡市町村スカッシュ  
バレーボール大会  
馬路会

## 《11 月》

- 9、10日 文化祭
- 17日 安芸郡市町村軟式野球大会
- 20、21日 県僻地教育研究大会
- 30日 馬路芸能発表大会

## 《12 月》

- 6日 馬路地区はし拳大会
- 7、8日 馬路地区神祭
- 21日 安芸郡青蘭会母子  
父子クリスマス集い
- 25日 歳末たすけあいもちつき

## 《1 月》

- 1日 魚梁瀬地区体育始め
- 2日 馬路地区体育始め  
成人式
- 6日 中芸地区消防出初式

## フォト・フォーカス



10月27日 スカッシュバレーボール大会



11月9日、10日 文化祭



11月30日  
馬路  
芸能発表大会



12月25日 歳末たすけあいもちつき



1月2日 馬路地区体育始め

村内あちらこちら

# 年頭のあいさつ

馬路村長 西 尾 晃一郎



村民の皆さん明けましておめでとうございます。希望に満ちた輝かしい平成四年の新春を迎え、皆様のご健康とご発展を心からお祈り申し上げますと存じます。

顧みずと昨年は一月の村議会議員選挙にはじまり十二月の県知事選挙に至るまで正に選挙に終始した一年でありました。

また、二月には予期せざる村長選挙によりまして、微力な私が村政をおあずかりする事になるなど波乱の一年でもありました。しかしながら村議会をはじめ村民の皆様のかいご指導とご支援を頂きまして、亡き西野前村長が精魂を傾けられた魚梁瀬森林保養

センターが完成し、また森林鉄道を走らす会の皆様方の努力の結晶であります魚梁瀬森林鉄道も復元いたしました。過疎化現象の著しい魚梁瀬地区の活性化の核となる待望の施設が相次いでオープンを致しました。

今後地域の活性化にこれらの施設をどう活かすか、色々な問題があります。地区民の皆様の英知を結集し運営を進めて欲しいと念願を致しております。

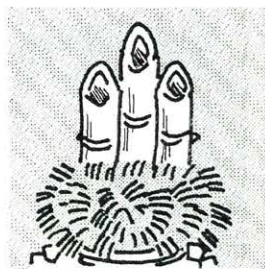
次に、コミュニティセンター馬路は平成二年の改修以来利用客が増加しておりますが、レストランが狭く今回増築を行ってサービスの向上を期することになりました。増

築工事は一月中旬より開始されますが、今回は工事期間中、でき得る限り休館はしない事と致しておりますので、皆様にはどうか平常どおりのご利用をお願い致しますと存じます。

また、林業を基幹産業とする馬路村では、林業の不振を打開するため林道の開設舗装や間伐の促進に努めておりますが、不況の林業再生への道は険しく好転の兆はありませぬ。しかし、林業とは本来息の長い産業であり「子孫のために美林を残す」ことが林業であることを思えば、我々には不況に屈することなく百年の大計をたてるべきであり、本年も引き続き生産基盤の整備や資本整備の充実に努力を致したいと考えております。

明るさの见えない林業の一方で農業の面では柚子加工製品の需要が大きく伸び農協集荷場では、全国より殺到する顧客の注文に対応し切れないと嬉しい悲鳴を上げており、現在加工施設を別途に建設することを検討中でありまして、この施設が完成すれば集荷・加工ともに飛躍的な能率向上が図られることになりましょう。

平成三年より新しく進めら



れることとなりました、国有林野事業経営改善計画も本村の関係では大きな変化はなく、須崎営林署の統合が決まりましたが、林野庁では膨張した累積債務解消の為平成三年度以降十年間に経営改善を強力に推進する事としており、営林署及び担当区事務所の廃止等の改善計画を進める一方で、森林の上・下流及び民有林・国有林を通じた森林の流域管理システムの下で事業運営を行うとの基本方針を定めており、今後の動向が注目されるるところであります。

「一年の計は元旦にあり」使い古された言葉であります。が新たな希望と決意をもって新しい年に望みたいと存じます。

本年もどうかより一層のご指導ご支援をお願い申し上げます。平成四年が村民の皆様にとりまして幸せな年であり、ますようお祈り致します。新年のご挨拶と致します。

# 教育研究大会

## 魚梁瀬小・中学校で開催



昨年十一月二〇、二一の両日にわたって、県へき地教育研究大会が魚梁瀬小・中学校を会場に開催されました。中学校は「郷土を見つめ、たくましく、心豊かに活動できる生徒の育成」をテーマに、特別活動、特にクラブ活動の実践発表を行いました。当日は思いもかけず、体育館いっぱいになるほど県下各地の先生方、教育関係者、地域の方々が発表を見に来てくれ、熱気あふれるなかでクラブ発表がはじまりました。

### 魚梁瀬中学校

英語クラブは一年生の女子二名の発表でしたが、手作りの魚梁瀬杉をバックに、対話形式で魚梁瀬のあらまし、特産品のユズやゴックン、魚梁瀬杉の紹介をし、地域や学校をすべて英語で紹介しました。同クラブでは英語でブックレットも作成しているの

で、村の観光案内としてもすぐ利用できるすばらしいものとなっています。続いて、郷土クラブは夏の（魚梁瀬―木頭―別府―手結―魚梁瀬）4泊5日の「平家の道探訪サイクリング」で木頭村で出会った平繁盛さんという方から聞いた平家の落

人伝説をもとにして、『魚梁瀬のあけぼの』という劇を発表しました。祖谷で源氏の追手からのがれて、甚吉が森を越えて魚梁瀬にたどりつくまでの苦難の歴史を劇化して、衣装なども山崎公好さんにお世話になり、他のクラブ員にも友情出演を頼んでの、にぎわいのある内容となりました。

木工クラブは「端材を利用した木工作品」を作る過程と端材を利用するなかで気づいた森林資源の世界的な状態、日本、馬路村の森林資源について、主にグラフを用いてくわしい説明をしました。木工



開会のあいさつ

クラブも夏に合宿をおこない千本山から高知の木材団地まで「木の一生」を追って調査をしました。ダムの中の流木や、風水害で野ざらしになっている木材の有効利用についても取り組んでいるところで

栽培クラブは、二年間研究してきた四季の花作りのなかで、特に「菊作り」をとりあげ、昨年の六月から準備を十一月にはつぼみが始まりました。果たして研究大会に満開に



木工クラブ発表

でつつんでくれました。発表はそのことをスライドでいねいに説明しました。

全体をつうじて生徒達がいきいきと、しかもしっかりとした態度で発表でき、参加された先生方からも賞讃の言葉をいただきました。又、地域の方々にもいろんな形で協力していただき、馬路中学校には、杉の土産物作り、記録フィルム、ビデオ撮り、PTAのみなさんには特産品の販売と大変お世話になりました。紙上をおかりしまして感謝申し上げます。

（文責・

魚梁瀬中 島村三津夫）



アトラクション

# 高知へき地



## 魚梁瀬小学校

第二十九回高知県へき地教育研究大会への取り組みは、平成二年度・三年度の二か年でした。

研究主題は『一人一人の表現力を育てる指導方法』です。一年次は

―国語科を中心にして―  
二年次は

―国語科の作文指導を中心に―  
具体的な実践を推進しました。

平成三年度は、学級担任三名中二名が教職員異動で転任し、実質的な研究の成果は七か月で公開授業に臨んだことになりました。低・中学年の授業は、全員が書く作業を取り入れましたが、書く力がついていると参観して下さった方々から評価していただきました。

このことは、八月から実施している『杉の実タイム』（五分間作文）も、大きな力になっていきたいと思います。火・水・木曜日の朝、全校児童が集会室に集まり、校長以下四名の教員が輪番で指導にあたります。題材は、季節あり行事あり、生活や学習、心の中のことまで幅広く取材されます。

## 授業風景



最初は一字も書かなかった子が、一行書き二行書き、内容も量も変化する姿は、私たち教職員の喜びであり励みです。職員室で子どもの成長の一つ一つが話題に上り、共感を得ることはなんと嬉しいことでしょうか。また、子ども同志がお互いを理解するきっかけにもなっているようです。研究大会後、小学校の分科会に参加された先生、運営に携わってくださった方々に、全校児童が分担して、お礼の手紙（葉書）を書きました。県下の先生方から続々と届いたお返事は、葉書・絵葉書・年賀状・封書など、様々な形式でした。自分宛の手紙をどんなにか嬉しく胸にいただいた



子どもたち。お返事をいただいた先生方に感謝するとともに、また一つ学習の経験を積み重ねている子どもに頬がゆるみます。『学校は地域の文化の灯』であらねばと、肝に銘じている教職員ですが、今回の研究大会に際しては、地域の方々に支えられる喜びとその底力に深く感銘しました。二十二日（木）は、企業を休みにしてまでの支援。魚梁瀬ならではの協力態勢。地域の期待の大きさを汲みとらずにはいられません。

新しい魚梁瀬小学校の教育の伝統は、今スタートしたばかりです。年毎に磨きをかけ「あの大会をやって良かった。」と数年後に語り合えてこそ、本物の研究と考えています。平成四年度から、教育課題や評価も大きく変容します。その中であって、現在の研究が時代に対応したものであると実感できると確信しています。

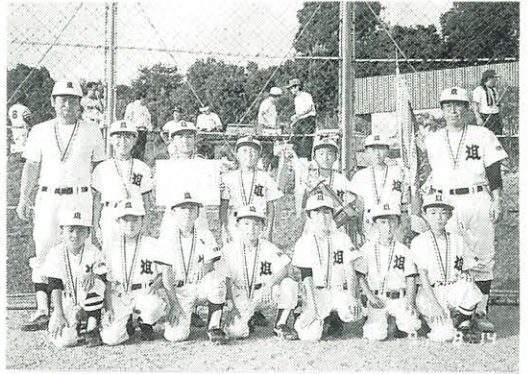
馬路小・中学校・教育委員会・村職員・村内の皆さんはもとより、県下の関係機関の方々、数え切れない程の人々の手と手が結び合わされて、大会を成功裡におさめることができました。改めて深い感謝の念を記しておきたいと思えます。あわせて今後とも、ご教示・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（文責・魚梁瀬小学校 松田）



# お じ ゃ ま し ま す

## 馬路村スポーツ少年団



今回の「おじやまします」

は三年前にできた馬路スポーツ少年団です。

少年野球の一年間は、九月の新人戦から始まり、八月の選手権で終ります。

昨年は公式戦七勝と、目標の十勝にはもう一步でしたが六年生四人を中心によくがんばりました。

学童野球低学年大会四年生以下の部では優勝することができました。県下の大会で馬路が優勝したのは、もちろん初めての事です。決勝戦の相手は、児童数六四四名のマンモス校、横浜スポーツ少年団。四年生単独で一チームを作って、日々練習している強豪です。ちなみに馬小の児童数は六八名、約十分の一です。そ

んな大きな学校を破り小規模校の馬小スポーツ少年団が優勝したのです。小さな学校でもがんばってやればできるのですね。

また、父兄のチームワークもよく、試合後の慰労会も大変盛り上がりました。酒をくみかわし、本音で話している熱が入りすぎ、けんかになった事もあったとか…。(そんなに子供の事で熱中できるなんて、うらやましいですね) お父さん達に聞いてみると「しんどかったけど、その時は感じなかった。」

「子供の成長が目に見えていくのでその喜びが大きい。」

「家の仕事を投げすてても子供とやってよかった。」(その裏には、おじいさんおばあさんの協力、理解があります) た。迷惑をかけました。」

「親が子供と一緒にできるのは小学校の間しかない。今やっちゃんかと悔いが残ると思う。」という事でした。

お母さん達は、「仕事から帰ったら、じきに飲みに出ていきよったけど野球しだしてそれも少なくなつた。親子のスキンシップがはかれてしょうえい。」

「子供も自分の事を父親や母親がじっと見守っていてくれるというので、精神的にも満

たされていると思う。」

「そういうたら夫婦げんかもする間が無いなつたね。」(夫婦、親子の会話もふえました。)

「暑い時も寒い時も子供達のがんばっています。今のこの努力が生かせる地域作りをしてほしい。」という意見も出ました。

新チームが活動を始めています。メンバーは十四名。監督の上治さん、コーチの小松さん、岡林さん達が毎日毎日子供達といっしょにグラウンドで走りまわっています。

すでに公式戦が三回あり、四勝しました。出ると負けのチームが少しずつ変わっています。

「もちろん勝つ事が全てではないが、目標に向かってチームメイトと力を合わせ、助け合



いがんばるなかで、他人の心の痛みのわかる子供達に育てられていると信じている。マナーやルール等、活動を通じて得た事を、必ず将来に生かしてくれる事を念願している。」と監督さん。

今日も寒いグラウンドで子供達はライトをつけて、はりきって練習しています。

「甲子園へ行きたい人？」の問いに

「ハイ」と元氣な返事がかえってきました。

二十年後の馬路村を背負っていく子供達ノ がんばれノ スポーツ少年団に入っていないお友達ノ いっしょに汗を流しませんか? 入団待っています。

若い心と体を

鍛えようノ

育てようノ

讚えようノ

# 魚梁瀬に来てよかった

四年 稲田 恵 太

去年六月長崎雲仙普賢岳の火砕流発生で、親類のいる魚梁瀬に転校されていた稲田君が長崎に帰ることになりました。短い間でしたが、魚梁瀬小の生徒と交流が持てたことは、たいへん有意義で、特に十一月の県へき地研究大会の会場校としての発表やらで、たいへんいろいろと経験されたと思います。魚梁瀬の思い出を作文に書いてもらいましたので掲載します。

「ドドン。」

という音におどろき、外へ出ると、空一面が黒えんにおおわれていました。所どころに



は、赤い火の粉が飛んでいました。それからまもなくすると、五ミリメートルぐらいの石がふつてき、家の中に、にげこみました。テレビをつけると、

「六月八日、午後七時四十分雲仙ふげん岳で、大火砕流が起きたまよう。」

などといっています。ひなんの用意をしましたが、ひなんかん告は出ませんでした。

六月十日月曜日、学校へ行くとき、二・三人転校してっていました。

六月十二日は、ふん石が落ち、島原市内の学校が休校になりました。ちょうどその日、ぼくも転校することが決まりました。

六月十八日、始めて魚梁瀬小学校へ来ました。その前の日は、どんな学校かなと考えていました。でも、魚梁瀬小学校三・四年生担任の松田千恵先生が、学級通信「あしあと」で、しょうかいしてくれていたので少し安心しました。学校の全校生とは、ぼくも入

れて十七人でした。仲よくしたいと思いました。

初めて魚梁瀬小学校に来た日、朗読集会で松田先生に、「ああ、どこから」という詩を読まされました。ぼくは、みんなの前で読むので少しきんちようしたけど、大きな声で読めたので良かったです。

ぼくの魚梁瀬での生活は、島原よりも楽しいです。子供会もあって、そこでも遊べるからです。子供会は、かんとくさんが、マラソンなどの指

どうをしてくれます。魚梁瀬は、上級生や下級生に関係なくみんなといても遊んでいます。

六月からのことをふりかえってみると、三つの力が伸びました。一つ目は、水泳です。魚梁瀬に来て五十メートル泳げるようになりました。二つ目は、絵が上手になりました。三つ目は、作文です。先生にくわしく教えてもらいました。作文を書いていても、目や心で力が伸びたなあと感じます。

二期には、担任の松田先生が、島原第一小学校へのほ

生が、島原第一小学校へのほ  
金活動をしようと、よびかけ  
てくださいました。ぼくたち  
三・四年生は、全校児童集  
と中学校の集会で、協力して  
くれるようにおねがいしまし  
た。魚梁瀬の住民には、お父  
さん、お母さんがぼくにまわ  
ってくださいました。十五万一千  
四百八円のお金がたまりま  
した。何べんお礼をいっても  
たりないほどうれしい気持ち  
です。島原へ帰ってもこのこ  
とは、わすれません。

二期で一番大きい行事は、  
十一月二十一日、二十二日の  
二日間あった。高知県へき地  
教育研究大会です。勉強は、  
十一月二十二日に見てもらい  
ました。ぼくたち三・四年生  
は、魚梁瀬についての作文を  
書きました。

ぼくは、五十人以上もの先  
生方を目の前にして勉強する  
なんて、生まれてはじめての  
ことです。それに、O、H、  
P、という機械を使って勉強  
するので、少しきんちようし  
ました。

ぼくの作文組み立て表を  
表して、お母さんや先生がほ  
めてくれたのがうれしかった  
です。このような経験を  
ぼくは、たくさんの方が前  
にいても、ちゃんと発表でき  
る自信ができました。

ぼくは、来月の終わり（十  
二月）には、長崎県島原市の  
家へ帰ります。でも、魚梁瀬  
の人たちのことも、学校の先  
生のことでも決してわすれま  
せん。みぞぶち校長先生は、今  
まで出合った校長先生の中で  
たのしい先生でした。小  
学校のお友だちも仲よくして  
くれました。中学生と遊んだ  
こともありました。

ぼくが、島原に戻ったら、  
島原のお友だちに魚梁瀬が良  
かったことを話してあげます。  
ぼくにあって今回のことは、  
とってもいい経験になりました。  
本当に魚梁瀬のことは、  
わすれません。これから島原  
でこの思い出や伸ばした力を  
勉強などに、生かして続け  
ていきます。

雲仙岳は、今も火砕流が起  
きて、島原の人たちも大変で  
す。ぼくは、魚梁瀬で、のん  
びりとくらしていました。少  
しは、島原の人たちのことも  
考えないといけないなと反省  
しました。これからぼくは、  
魚梁瀬と島原のことを考えな  
がら生きていかなければ  
せん。「相手の立場に立って  
考え行動する子にならなさい」  
と言う松田先生の教えを実行  
したいです。松田先生これか  
らもぼくを、見守っていてく  
ださい。

# 健康 — ナ —

## 一生に一度飲むだけで 脳卒中で絶対倒れない法

貴重な資料です。紹介いたしますので是非実験してみてください。国分市の養護老人ホーム慶昌園で体験しており、数千人の人が試され、そのことごとくが健在であるという実験済みだそうです。国分市及び各方面で大変評判になっているそうです。

### 脳卒中で絶対倒れない 飲物の作り方

- (一人分)
1. 鶏卵(有精卵) 一個(白味だけ)
  2. ふきの葉の汁 小さじ3杯  
ふきの葉の生を3/4枚きざんですりつぶしそれをこした汁。ツワブキは駄目。
  3. 清酒 小さじ3杯(焼酎は駄目)
  4. 漬梅一個をすりつぶす  
土用干しした梅は駄目  
塩漬けにして柔らかく  
なったもの。

Ⓢ 厳重注意……製品は必ず番号順に入れること。

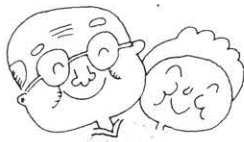
一品を入れるごとにできるだけよくかきまぜることに。

☆ 入梅の六月頃にはふきも梅も手に入ります。

☆ この飲物は一生に一度飲むだけで良いのです。  
(何度飲まれても良いのですが)是非早急にお試し下さい。

☆ この資料は、福岡市の小学校校長会で配布されたものです。

☆ あまりお金のかからない脳卒中予防薬です。  
職場及び近所の方々に教えてあげて下さい。



◎ 中国では、古来より貴族が薬鳥として利用しており「烏骨鶏酢卵」として利用されると次のような効果があると言われています。

その作り方、及び飲み方について次のことを参考にしてください。

### 1. 効能

(1) 壮年者における動脈硬化の予防、脳溢血、心筋弱症の予防。

(2) 胃下垂症者、胃弱症者、肝臓病、糖尿病は百発百中で、常用期間は長くて二カ月。

※ (重症者)一カ月〜一カ月半で完全に治る。

※ 医療一年から二年続行していても又、不治の人でも完治する。

(4) 高血圧でも医師の注射よりも有効。

(5) 神経痛、リュウマチなどにも実効顕著。

(6) いわゆる老人病と称せられる病気に有効。

### 2. 作り方

食用酢(リンゴ酢、米酢)一合をコップに注ぎ、烏骨鶏卵一個を殻のまま浸し36〜40時間置けば、卵殻は溶けて薄皮に包まれた卵黄と卵白はピンポン玉のように

なっている。  
これを箸で薄皮を破って取り去り、卵黄と卵白をかきまぜる。  
これが酢卵の原液で、このままでは酸味と苦味があつて飲みにくいので、ハチミツなどを加えて、自分で飲みやすい味にして飲む。

### 3. 飲み方

一合で作った酢卵を五日〜七日で飲むが良い。  
空腹時、一日分の量を水または湯で二〜三倍の自分で飲みやすい程度に薄めて飲む。

健康体の人でも疲労したときに飲めば回復が特に早く肉体的、精神的疲労にかかる前に飲んでおけば、疲労感を忘れることができる。  
※ 食酢は酸性ですが、体内にはいつて吸収されると血液はアルカリ性になります。

資料「烏骨鶏酢卵のおすすめ」  
高知医大 大島武



# 村内あちこち (フォトアルバム)



# 馬路村の歴史と伝説



〈通算第38回〉

民話第4話

馬路公民館長 山中 巖

## 法をきかした法道和尚

むかし藩政時代の末期から明治の初期にかけて、金林寺に松井法道という法をきかすお坊さんが住んでいました。

ある年の冬の夕方、法道和尚は夕ご飯を食べていました。急にある予感におそれ、急にある予感におそれ、高野山の本堂が火災であるということでした。法道和尚は地区の人々にすぐ手桶を持って集まるように連絡しました。

人々は、今の営林事務所下の河原に集まりました。「いま、高野山の本堂が火災です。すぐに手桶で水をかけて下さい。」

法道和尚は大きな声で叫びました。

地区の人々は、手桶に水を汲んで一生懸命をめぐりかけてかけました。人々は、この水が高野山まで届くのか不審で

したが、法道和尚のいうとおりにしました。一時間もたちましたでしょうか、法道和尚の大きな声が響きました。「本堂の火災は消えました、皆さん有難う。」

馬路でかけた手桶の水は、山を越え、海を渡って高野山の本堂までたっしていたのです。

ある年の苗代をつくる頃日照りが続いて谷に一滴の水もなくになりました。地区の人々は、雨乞いのご祈禱を法道和尚に頼みました。

法道和尚がご祈禱をする傍では、地区住民が焚火をしていました。和尚は、ご祈禱をすまして、「今日は少し寒いな。」といながら足を横たえて暖をとっていました。地区の人々は、薪と一緒に和尚の足まで焚火にくべたのです。

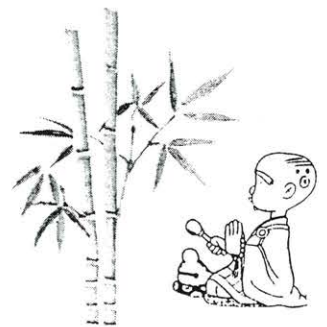
和尚は、ハンセン氏病(ライ病)をわずらって、足の神経が麻痺していたため、自分の足が焚火にくべられていたという事です。

もちろん、ご祈禱の甲斐があつて、夕方から大雨が降りました。地区の人々は、法道和尚の法力に舌をまいたとい

います。法道和尚は、死の直前に次のような遺言を残しています。「わしが死んだら、墓所のそばに、二又の竹が生える。竹が生えたら、馬路の村民に幸福がもたらされるであろう。」と。和尚の遺言どおり、死後墓所の傍に二又の竹が生え

ました。お寺では、大事に育てていました。また地区の人々にも「法道さんの身代りとして生えたものね」とささやきながら大事に見守っていました。

ある日、Aさんは法道さま



へお参りに来ました。ふと傍を見ると二又の竹が生えていました。これはめずらしいと思つて、もたら切り取つて帰りました。

それから何年か過ぎました。Aさんの家族ははなればなれになり、災難におそれられる不幸がおとずれました。

地区の人々は、二又の竹を切つた罰だといいました。それ以後、法道和尚の墓所に生える竹は誰も切らなかつたといわれています。

なお、現在、Aさんの切り取つた二又の竹の一片が、ど

ういう経過をたどつたかわかりませんが、Bさんのお家で、丁寧に祀りされているとい



## 平成

四年は申年です。サルは、桃太郎やサルカニ合戦にも登場する、おなじみの動物です。

## 日本

に生息しているのは、ニホンザルです。顔とおしりの赤い、おなじみのサルです。ニホンザルの南限は鹿児島県の屋久島、北限は青森県の北端の下北半島です。沖縄と北海道にはいません。

ニホンザルは、昔から日本人に親しまれてきました。昔話はもちろんですが、古事記や日本書紀にも登場し、道案内をするサルタヒコノカミは、サルであるともいわれ、いまでは道祖神としてまつられています。

ことわざにも、サルにまつわるものがいろいろあります。だれでも知っているのは、「サルも木から落ちる」でしょう。これは、サルを木登りのベテランとしているわけですが、一方、「サルまね」「サル知恵」などになると、サルは笑いもの扱ひされています。



## 平成4年度教育委員会年間行事予定

4	11	馬路職域ソフトボール大会
5	11、12	馬路職域卓球大会
6	15、16、17	部落対抗バレーボール大会
7	11	フェスティバル魚梁瀬（予定）
8	15	馬路温泉祭
9	20	馬路おしどりマラソン大会
	27	おらが村・心臓やぶりフルマラソン大会
10	11	馬路地区村民運動会
	18	魚梁瀬地区村民運動会
11	14、15	文化祭（馬路体育館）
	29	村内芸能発表会（就業改善センター）

### お 知 ら せ

## 臨時教員（常勤講師）募集

職務内容 公立・県立学校教員の産休・育休・病休等の補充教員

雇用期間 常勤講師 補充等の期間(最長1年間)  
時間講師 1年間(高校のみ)

資 格 教育職員免許状を有するもの

待 遇 公立学校職員の給与に関する条例による  
(高校の時間講師 時給約2,700円程度)

応募方法 願書請求のこと

応募先・問い合わせ先

高知県教育委員会

高校教育課人事班 ☎0888-21-4735

義務教育課人事班 ☎0888-21-4731

〒780 高知市丸ノ内1-7-52

赤 ち や ん 万 歳



リ エ 村神理苗ちゃん

平成2年7月10日生(影)

村神 幹人, 文子さんご夫妻の二女です

生まれた時は「いやあ、公栄にかあらん！」でしたが、最近ではミリオバあちゃんに似てきたっていわれます。おじいちゃん、おばあちゃんがかわいくて、かわいくてたまらないそうで、時々お泊まりもします。  
なんでもよく食べるので、とつても大きくなりました。ハイハイもできるし、つかまり立ちもできるようになりました。  
大好きなお母さんがご用の間は、お父さんと遊んで、おこうで待っています。  
ニコニコよく笑う愛想のいいゆうきくんでした。



ユウ キ 乾 友哉君

平成3年5月6日生(影)

乾 公栄, 真由美さんご夫妻の長男です

りえちゃんのお父さんは、学校の先生です。本当のお家は南国だけど、りえちゃんはヤナセで生まれました。  
南国には、おじいちゃんとおばあちゃんがいて、週末にりえちゃん達が帰るのを待ちかねています。  
りえちゃんはおじいちゃん大好き！  
とってもおてんばさんで、お姉ちゃんをおしのけて、お父さんと遊びます。お母さんとお話している間、まわりをチヨコチヨコ。ちつともじつとしていませんでした。  
(でも) 帰りには「チユツッ」とかわい投げキッスをしてくれました。

馬 路 俳 壇

善 心 満ちている

天高き川原仏の弟子が居る  
合掌の尊き祈り障子貼る  
一 美 魚げぐせの鍋みがき居り

喜美栄  
尼寺の盛りの石路を贈られる  
野は枯れて見目失いし石仏  
初時雨

戦傷の幾星霜を経しよみじ  
清 子 雅 子  
雪柳ちらりほろしと返り花

夫の座にすわりて冬の夜の卓  
サフランの色鮮かに冬に入る  
百合子

いつまでも亡き夫在わす  
千鶴子 柚子の国  
カレンダーにメモ付いており

短日の開かぬ門内老婆佇つ  
柚子採りが空家に風を  
通しけり

サルビアの花燃え盛る  
空の澄み 麗山子  
秋刀魚焼き煙の如く峡に老ゆ

うた子  
峡深く今年も茄子の食べ終り  
湯呑にも心経の文字秋の暮

いっしょにおめでんがいにこます

父	母	赤ちゃん	続柄	生年月日	部落
吉良 康	佳 恵	もも子	長女	3・12・13	魚梁瀬
清岡 明徳	小夜子	直 樹	長男	3・12・24	相 名

ごめい福をお祈りします

氏 名	性別	年齢	死亡年月日	世帯主	続柄	部落
改田登志男	男	68歳	3・10・15	登志男	本人	魚梁瀬
尾谷 利晴	男	77歳	3・10・30	利晴	本人	日 浦
浦木山絹治	女	83歳	3・11・10	和 子	養母	影
濱田 寛憲	男	49歳	3・12・17	寛 憲	本人	魚梁瀬